



ふたばの時間で育みたいこと

校長 町田 大樹

「学習」という言葉を聞くと、「漢字がどれくらい書けるようになったか」「計算を早くできるようになったか」「知識をどれほどたくさん覚えたか」といったところのみが注目されがちです。もちろん、それらも大切であることに変わりはありませんが、今回は馬場小で取り組んでいる『ふたばの時間』について紹介したいと思います。

馬場小学校では3年生以上の総合的な学習の時間を『ふたばの時間』と呼んでいます。1、2年生の生活科の学習を基礎として、各学級の子どもたちの実態や興味・関心に応じて、学習を展開していきます。

例えば、3年生のあるクラスでは、ハーブ園を作っています。また、4年生のあるクラスでは大豆を収穫しました。5年生では学年で米づくりをしたり、6年生のあるクラスでは壊れた傘の布を再利用してエコバックを作ったりと、様々な取り組みを行っています。学級独自の活動を一から立ち上げたり、教科の学習を発展させたりとその活動は多様です。体験を伴う学習のため、この学習が大好きな子どもたちも多いです。時々、子どもたちが嬉しそうにクラスの取り組みを話してくれることがあります。それを聞くことは私の楽しみの一つです。

この学習のねらいは、子どもたちが自ら課題を見つけ、主体的・協働的に解決を図りながら、自分の生き方に結びつけて考えていく力を育むことです。取り組みは違っていても、その過程で目指すものは同じです。課題解決に向けてチャレンジすれば、うまくいかなかったり、予想した結果と違ったりすることもあります。子どもはそれを失敗だととらえることもあります。しかし、うまくいかなかった時こそが大きな学びのチャンスとなります。その原因がどこにあるのかを自分で考え、試行錯誤しながら少しずつ工夫や改善をしていく過程が、さらに意欲を高め、生きる上で役に立つ知恵となって定着していきます。実際に、総合的な学習の時間での取り組みが、学習意欲や学力の向上につながっていることが、様々な研究で報告されています。



6年生 壊れた傘をリサイクル

この学習で身に付けたい力は短期間で育つものではありません。毎年、学習を積み重ねることで子どもの中に少しずつ蓄積していきます。本校では平成30年度より、3年にわたって生活科・総合的な学習の時間を校内の重点研究テーマにし、単元開発や授業改善を行ってきました。

今年度はコロナ禍の影響もあって、校外に出たり、地域と関わったり、多様な人々に働きかけるような活動を思い切りできる環境ではありません。しかし、こうした状況だからこそ、子どもたちには今の状況の中で自分のできることを考え、チャレンジし、自分を見つめる時間にしてほしいと願っています。馬場っ子のひたむきな姿をこれからも温かく励まし、支援していきたいと思っています。

コロナ禍によって大きな変化を余儀なくされた令和2年。皆様の温かいご理解とご協力をいただきながら歩んでまいりました。寒さに向かう中、皆様のご健勝を願いまして、今年一年の感謝とさせていただきます。ありがとうございました。